

事務事業名	有害鳥獣被害防止用電気柵設置支援事業		所属部局	農林商工部		単位番号	6038				
			所属課室	農林振興課		課長名	築野剛司				
	☒ 実施計画事業		所属担当	農業振興担当		担当者名	折居慎也				
基本政策	基本計画体系	Ⅱ にぎわいと活力あふれる都市づくり	予算科目	会計 01	名称 一般	款 06	項 01	目 03	細目 030	細々目 03	
政策		07 農林水産業の振興	事業区分	☐ 国の制度による義務的事業 ☐ 施設等維持管理事業 ☐ 県の制度による義務的事業 ☒ 補助金交付事業 ☐ 市の制度による義務的事業 ☐ その他の事業 ☐ 義務化されている協議会等の負担金							
施策		12 生産を支える基盤の整備充実									
事業期間	☐ 単年度のみ ☒ 単年度繰返（開始年度 年度） ☐ 期間限定複数年度（ 年度）			法令根拠	市農業振興事業補助金交付要綱						
事務事業の概要	事業の内容・・・期間限定複数年度事業は次年度以降3年間の計画内容も記載 ・有害鳥獣被害対策のうち、個人の畑に電柵を設置する場合に補助金を交付する ・交付額は設置額の1/2で10万円を限度とする。 ・補助対象者は毎年変わる。(1人年1回のみ)			事業費の主な内訳（ 24年度 決算見込）							
				項目(細節)		金額(千円)		項目(細節)		金額(千円)	
				その他補助金		556					
								計		556	

1 現状把握(DO)

(1) 事務事業の目的と目標

① 活動	
24年度活動実績	
25年度活動予定	
② 対象(この事務事業は誰、何を対象にしているのか) * 人や自然資源等	
有害鳥獣に悩まされている農業従事者	
③ 意図(この事務事業により対象をどのような状態にしていけるのか、どのように変えるのか)	
農作物への被害が減少する。	
④ 上位目的(どのような結果に結び付けられるのか)	
農産物の安定した生産に繋がる 《生産を支える基盤の整備充実》	

⇒ ⑤ 活動指標(事務事業の活動量を表す指標) 数字は記入しない	
名称	単位
アイウ	件
申請者数	
⇒ ⑥ 対象指標(対象の大きさを表す指標) 数字は記入しない	
名称	単位
アイウ	人
⇒ ⑦ 成果指標(対象における意図の達成度を表す指標) 数字は記入しない	
名称	単位
アイウ	頭
捕獲頭数	
⇒ ⑧ 上位成果指標(結果の達成度を表す指標) 数字は記入しない	
名称	単位
アイウ	億円
生産農業所得額(山梨農林水産統計年報)	

(2) 事業費・指標の推移				単位	23年度 (決算・実績)	24年度 (決算見込・実績)	25年度 (予算・目標)	26年度 (次年度計画・目標)	27年度 (計画・目標)	28年度 (計画・目標)	最終 (トータルコスト・目標)	年度
年間 トータル コスト	事業費	財源内訳	国庫支出金	千円								
			県支出金	千円								
			地方債	千円								
			その他	千円								
			一般財源	千円	1,800	556						
	事業費計 (A)			千円	1,800	556	0	0	0	0	0	
	人件費	正規職員従事人数	人	1	1							
		延べ業務時間	時間	30	30							
		人件費計 (B)	千円	119	119	0	0	0	0	0	0	
		(A)+(B)			千円	1,919	675	0	0	0	0	0
活動指標		アイウ	件	20.0	20.0	20.0	20.0					
対象指標		アイウ	人	4,296.0	4,296.0	4,296.0	4,296.0					
成果指標		アイウ	頭	1,300.0	1,400.0	1,500.0	1,500.0					
上位成果指標		アイ	億円	52.0	52.0	52.0	52.0					

(3) この事務事業を取り巻く状況(対象者・社会状況等)の変化、市民意見等

① この事務事業はいつ頃どんな経緯で開始されたのか？	鳥獣被害のある農家が電柵を設置するにあたり、費用が高額になるため、被害を最小限に抑えられるよう助成制度を設けた。
② 事務事業を取り巻く状況は開始時または5年前と比べてどう変化しているか？また、今後の予測は？	鳥獣被害は増加傾向にあり、特に山間部では被害状況は深刻である。今後も、個体数の削減は厳しく増加するものと考えられる。
③ 事務事業に対して関係者(市民、事業対象者、議会等)からどんな意見・要望が寄せられているか？	鳥獣害に対する山間部の農家の要望は多く、被害の対策への要望が多い。

(4) 改革改善の取り組み状況

① 改革改善の取り組み実施は？	☐ 取り組みしている ⇒【内容↓】 ☒ 取り組みしていない ⇒【理由↓】
② これまでの改革改善の取り組み状況・経過(取り組みしていない場合はその理由)	なし
③ H 24年度に実施した改革改善の内容	なし

事務事業名	有害鳥獣被害防止用電気柵設置支援事業	所属部	農林商工部	所属課	農林振興課
-------	--------------------	-----	-------	-----	-------

2 評価(Check1)担当者による事後評価(複数年度事業は途中評価)

目的 妥当性 評価	① 政策体系との整合性 この事務事業の目的は市の政策体系の施策に結びつき、貢献しているか？意図が上位目的に結びついているか？	☐ 結びついていない(見直し余地がある) ⇒【理由↓】 ⇒ 3評価(Check2)・4今後の方向性に反映 ☒ 結びついている ⇒【理由↓】 電柵の設置により、有害鳥獣被害は減少しており、施策及び意図に結びついている	
	② 公共関与の妥当性 この事務事業を税金を投入して市が行わなければならないのか？ 民間やNPO、市民協働に移行することは可能か？	☐ 見直し余地がある ⇒【理由↓】 ⇒ 3評価(Check2)・4今後の方向性に反映 ☒ 妥当である ⇒【理由↓】 鳥獣被害は本市の基幹産業である農業にとって、深刻な問題であり、被害を防止するためには、税金投入も必要。 事務事業の全部もしくは一部を外部に移行することが可能である。 ☐ 民間・NPO ☐ 市民協働	
	③ 維持・継続の妥当性 現状の対象と意図、成果から考えて、この事務事業を将来にわたり、維持・継続していくことは妥当か？目的や事業の必要性を見直す余地はあるか？	☐ 見直し余地がある ⇒【理由↓】 ⇒ 3評価(Check2)・4今後の方向性に反映 ☒ 適切である ⇒【理由↓】 個体数が増加し苦情数も増えている状況にあり、何らかの対策が必要であるが、個人で守るためには、最良な方法であり、継続して支援し農産物を有害鳥獣から守る必要がある。	
有効性 評価	④ 成果の向上余地 今後さらに事務事業の成果を向上させることはできるか？できない場合は何が原因でできないのか？	☐ かなり向上余地がある ⇒【理由↓】 ⇒ 3評価(Check2)・4今後の方向性に反映 ☒ ある程度向上余地がある ⇒【理由↓】 ⇒ 3評価(Check2)・4今後の方向性に反映 ☐ 向上余地がない ⇒【理由↓】 電柵の設置した場所については、被害が防げており成果が得られている。設置箇所を増やすことで成果が上がる。	
	⑤ 類似事業との統合・連携の可能性 類似した目的を持つ事務事業が他にあるか？類似事務事業がある場合、その事務事業との統合や連携を図ることができるか？	☐ 類似事務事業がある ⇒(類似する事務事業の名称を記入↓) ☐ 統合・連携ができる ⇒【理由と具体案↓】 ⇒ 3評価(Check2)・4今後の方向性に反映 ☐ 統合・連携ができない ⇒【理由↓】 ☒ 類似事務事業がない	
	⑥ 休止・廃止した時の影響及び休止・廃止の可能性 この事務事業を休止・廃止した場合影響はあるか？また成果から考えて、休止・廃止することはできるか？	☐ 影響なし ☒ 影響あり ⇒【理由と影響の内容↓】	☐ 休止・廃止ができる ☒ 休止・廃止できない ⇒【理由↓】 電柵を個人負担で設置する場合には費用が高額となるため、被害を防ぐためには助成事業は必要 個人負担での設置となると、費用が高額となり、設置できない農家もあるため。
効率性 評価	⑦ 事業費の削減余地 成果を下げずに事業費(コスト)を削減できないか？(仕様や工法の適正化、住民の協力など)	☐ 削減余地がある ⇒【理由・具体案↓】 ⇒ 3評価(Check2)・4今後の方向性に反映 ☒ 削減余地がない ⇒【理由↓】 鳥獣被害の防止のためには、電柵等の施設がどうしても必要なため、削減はできない。	
	⑧ 人件費の削減余地 成果を下げずに人件費を削減できないか？(事業のやり方の見直しによる業務時間の削減や臨時職員対応や外部委託による削減はできるか？)	☐ 削減余地がある ⇒【理由・具体案↓】 ⇒ 3評価(Check2)・4今後の方向性に反映 ☒ 削減余地がない ⇒【理由↓】 補助金の申請及び交付事務であり、必要最小限の時間で対応しているため、削減余地はない。	
公平性 評価	⑨ 受益機会・受益者負担の適正化余地 事務事業の内容が一部の受益者に偏っていないか？受益者負担を見直す必要はないか？公平公正か？	☐ 見直し余地がある ⇒【理由・具体案↓】 ⇒ 3評価(Check2)・4今後の方向性に反映 ☒ 公平・公正である ⇒【理由↓】 電柵の設置申請があれば、申請書をもとに交付を決定するため、一部の受益者に偏っているということはない。	

3 評価(Check2)担当課管理者による評価結果と総括

(1) 1次評価者としての評価結果	(2) 1次評価の総括(事務事業を実施した結果を振り返り気づいたこと、課題、今後の方向性等について)
① 目的妥当性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり ② 有効性 ☐ 適切 ☒ 見直し余地あり ③ 効率性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり ④ 公平性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり	有害鳥獣の被害などへの相談は年々増えている。特に果樹や野菜の収穫に併せて猿、猪、シカにたいする被害防止の要望が多く寄せられる。決定的な解決方法は現在のところ見当たらないので、少しでも被害を抑えられるよう、個人等で設置する電柵等に対し、補助金による支援を行う必要がある。

4 今後の方向性(事務事業担当課案)(PLAN)

(1) 今後の事務事業の方向性(Check1の結果から定める)・・・複数選択可 ☐ 廃止(目的妥当性①、②、③の結果) ☐ 事業統合・連携(有効性⑤の結果) ☐ 公平性改善(公平性⑨の結果) ☐ 休止(目的妥当性①、②、③の結果) ☒ 成果向上(有効性④の結果) ☐ 現状維持(全評価項目で適切) ☐ 必要性検討(目的妥当性①、②、③の結果) ☐ コスト削減(効率性⑦、⑧の結果)		(3) 改革・改善による方向性 <table><tr><th colspan="2" rowspan="2"></th><th colspan="3">コスト水準</th></tr><tr><th>削減</th><th>維持</th><th>増加</th></tr><tr><th rowspan="3">成果水準</th><th>向上</th><td>☐</td><td>☐</td><td>☒</td></tr><tr><th>維持</th><td>☐</td><td>☐</td><td></td></tr><tr><th>低下</th><td>☐</td><td></td><td></td></tr></table> ※ 廃止・休止の場合は記入不要				コスト水準			削減	維持	増加	成果水準	向上	☐	☐	☒	維持	☐	☐		低下	☐		
		コスト水準																						
		削減	維持	増加																				
成果水準	向上	☐	☐	☒																				
	維持	☐	☐																					
	低下	☐																						
(2) 改革改善案について ①設置箇所を増やすため、補助額の増額や補助制度の周知を図る ② ③ ＊H24年度をもって事業を廃止し、内容を施設設置支援事業に統合する。(11月)		(5) 事務事業優先度評価結果 成果優先度評価結果 コスト削減優先度評価結果																						
(4) 改革改善を実現する上で解決すべき課題とその解決策 ①助成額が10万円の上限であり、設置事業費に対して少額であるため、自己負担のことを考えると、設置希望者は多いが、実施する人が少なくなる。																								